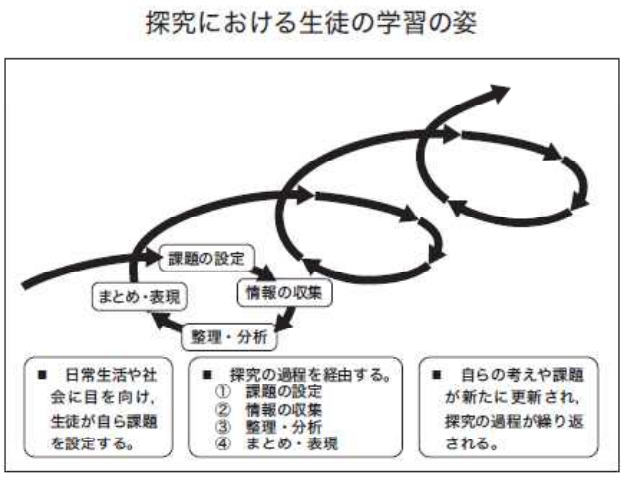
総合的な探究の時間

1　全般的事項に関する質疑応答

問１　探究の見方・考え方とは、どのようなことか。

生徒は、右図に示すように、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。この探究のプロセスを支えるのが探究の見方・考え方である。

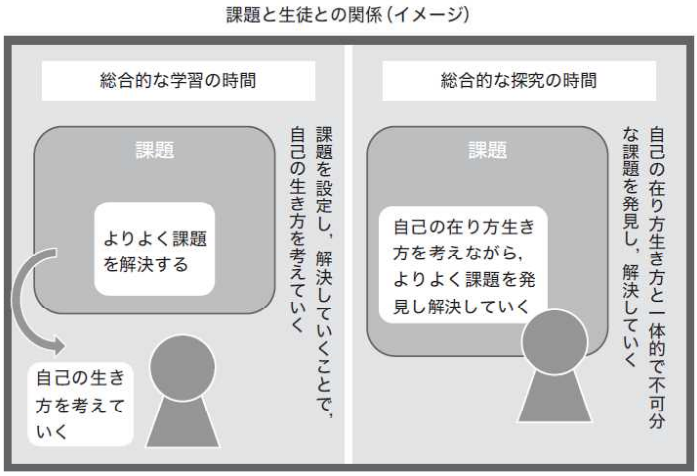


（図　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
総合的な探究の時間編）

探究の見方・考え方とは、各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、「自己の在り方生き方を問い続ける」という総合的な探究の時間の特質に応じた見方・考え方のことである。

探究の見方・考え方は、総合的な探究の時間の中で、生徒が探究の見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することにつながり、学校教育のみならず、大人になった後に、実社会や実生活の中でも重要な役割を果たしていく。

なお、小中学校における総合的な学習の時間では、「探究的な見方・考え方を働かせる」としているのに対して、高等学校における総合的な探究の時間では「探究の見方・考え方を働かせる」としている。「探究的な学習」が物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことであるのに対し、「探究」は物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営みのことを指す。



（図　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
総合的な探究の時間編）

問２　総合的な探究の時間の目標を設定するに当たり、学校教育目標と関連付ける必要があることが示された意図は何か。

学校教育目標の設定に当たっては、法令や教育委員会の規則、方針等を踏まえつつ、生徒や学校、地域の実態を的確に把握し、学校教育全体及び各教科等の指導を通じて、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明らかにしながら、そうした実態やねらいを十分反映した具体性のあるものとすることが必要である。

一方で、総合的な探究の時間の目標の設定に当たっては、各学校が育てたい生徒像や育成すべき資質・能力などを､各学校の創意工夫に基づき明確に示すことが大切である。このことは、総合的な探究の時間の目標が、学校教育目標と直接的につながるという、他教科等にはない独自の特質を有することを意味している。

各学校の教育目標の具現化に当たり、総合的な探究の時間の目標が各学校の教育目標を具体化し、総合的な探究の時間と各教科・科目等の学習とを関連付けることで、教育課程全体において、学校教育目標のよりよい実現を目指していくことになる。

問３　総合的な探究の時間の目標を設定するに当たり、留意する点は何か。

各学校において、総合的な探究の時間の目標を設定するに当たっては、次の三点について留意する必要がある。

①各学校における教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。	②他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。	③地域や社会との関わりを重視すること。

①の「各学校における教育目標を踏まえ」とは、各学校で定める総合的な探究の時間の目標が、この時間の円滑で効果的な実施のみならず、各学校において編成する教育課程全体の円滑で効果的な実施に資するものとなるよう留意する必要がある。また、①の「総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示す」とは、各学校の教育目標を踏まえ､各学校で定める目標の中に､この時間を通して育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」､「思考力、判断力、表現力等」､「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に即して具体的に示すことである。

②の「他教科等の目標及び内容との違いに留意」とは、全ての学習の基盤となる資質・能力を育む総合的な探究の時間では、各教科・科目等で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが総合的に働くようにすることが大切であることを示している。また、各教科・科目等は、それぞれ固有の目標と内容をもっており、総合的な探究の時間と、各教科等で育成することを目指す資質・能力の共通点や相違点を明らかにして目標を定め、各々が役割を十分に果たし、その目標をよりよく実現するこ

とで、教育課程全体として適切に機能することになる。また、「他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視する」とは、各教科・科目等の目標に示されている、育成を目指す資質・能力の三つの柱ごとに関連を考えることである。

③の「地域や社会との関わりを重視すること」には、次の三つの意味がある。

1　実社会や実生活において生きて働く資質・能力の育成が期待されていること
2　生徒が主体的に取り組む学習が求められていること
3　生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが重視されていること

問４　横断的・総合的な学習を行うために、配慮すべき事項は何か。

総合的な探究の時間と各教科・科目等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で教科・科目等横断的に資質・能力を育成していくカリキュラム・マネジメントが求められていることを踏まえ、次の二点に配慮して、指導計画を作成する必要がある。

①他教科等及び総合的な探究の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。
②その際、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など全ての学習の基盤となる資質･能力を重視すること。

①は、各教科・科目等でそれぞれに身に付けた資質・能力をつながりのあるものとして組織化し直して、改めて現実の生活に関わる学習において活用し、それらが連動して機能するようにすることである。例えば、年間指導計画を工夫し単元配列表を作成することで、各教科・科目等で学ぶ１年間の学習内容や扱われる題材と、総合的な探究の時間の内容や学習活動との関連を概観し、捉えることができることから、各教科・科目等で身に付ける資質・能力について十分に把握し、総合的な探究の時間との関連を図る必要がある。

＜探究の過程と各教科・科目等との関わり＞

探究の過程	教科	具体的な活動の例
情報の収集	地　歴 公　民	資料活用の方法を生かした現地調査やインタビュー、文献調査など。
	国　語	目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする資質・能力を生かして、老人から昔の生活の様子を聞き取ることなど。
整理・分析	数　学 情　報	統計の手法でデータを整理して効果的な図表などに示すことなど。
	国　語	複数の文章や資料を基に必要な情報を関連付けて自分の考え

		を広げたり深めたりすることを生かして論述し議論すること、文章の書き方を生かして相手や目的に応じて論理の構成や展開、文章の形態や文体、語句などを工夫して、説得力のある企画書や報告書、案内状や御礼状、レポート等を書くことなど。
	理　科	生物の多様性と生態等に関することを生かして、自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付け、変化の要因を考えながら観察、実験などを計画的に行いつつ、地域の生態系の保全計画を立てることなど。
まとめ・表現	美　術 工　芸 書　道	それぞれの教科で学んだ手法を生かしてポスター､イラスト、マスコットなどを制作することなど。
	外国語	外国人観光客への案内、掲示やパンフレットの作成などで生かすことなど。

総合的な探究の時間において、各教科・科目等で育成された資質・能力が発揮されたり、逆に総合的な探究の時間で育成された資質・能力が各教科・科目等の学習活動で活用されたりといったことを生徒が経験することによって、身に付けた資質・能力は汎用的な資質・能力として育成される。

また、②の資質・能力とは、次に示すとおりである。

言語能力	情報活用能力	その他の学習の基盤となる資質・能力
言語に関わる知識及び技能や態度等を基盤に、「創造的思考とそれを支える論理的思考」､「感性・情緒」、「他者とのコミュニケーション」の三つの側面の力を働かせて、情報を理解したり文章や発話により表現したりする資質・能力	世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力	問題解決的な学習を通じて育成される問題発見・解決能力、体験活動を通じて育成される体験から学び実践する力、「対話的な学び」を通じて育成される多様な他者と協働する力、見通し振り返る学習を通じて育成される学習を見通し振り返る力

なお、「横断的・総合的な学習を行う」というのは、総合的な探究の時間の学習の対象や領域が、特定の教科・科目等に留まらず、横断的・総合的でなければならないということである。したがって、各教科・科目等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいける学習となるよう、教科・科目等の枠を超えて探究する価値のある課題を、各学校が目標を実現するにふさわしい探究課題として設定する必要がある。

＜目標を実現するにふさわしい探究課題＞

①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題	②地域や学校の特色に応じた課題	③生徒の興味・関心に基づく課題	④職業や自己の進路に関する課題
例 「自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題」	例 「地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織」	例 「文化や流行の創造と表現」	例 「職業の選択と社会貢献及び自己実現」

問５　「総合的な探究の時間」の履修は、科目の名称に「探究」を冠した科目の履修をもって代替することとしてよいか。

今回の改訂で、各教科に「探究」を冠した科目が新設されたのは、当該の教科・科目における理解をより深めるために、探究を重視する方向で見直しが図られたことによるものであり、総合的な探究の時間で行われる探究は、次の①～④において、各教科における「探究」を冠した科目と異なる。

①総合的な探究の時間の学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらない横断的・総合的なものであるとともに、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としていること。

②総合的な探究の時間では、複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究することとしていること。

③総合的な探究の時間では、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉え、考えていくものであるのに対し、他の探究科目は、当該教科・科目における理解をより深めることを目的に行われていること。

④総合的な探究の時間における学習活動は、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見出すことを重視していること。

これらの内容や、今回の改訂の趣旨を踏まえると、「探究」を冠した科目を履修したことで、総合的な探究の時間の代替履修をしたことにはならない。

なお、「理数探究基礎」と「理数探究」については、履修によって総合的な探究の時間と同様の成果が期待できる場合、総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができる。

ただし、代替が可能とされるのは、総合的な探究の時間の目標等からみても満足できる成果が期待できる場合であり、履修をもって自動的に代替が認められるものではないことに留意する必要がある。

問６　総合的な探究の時間の全体計画を作成するための留意点は何か。

全体計画とは、指導計画のうち、学校として総合的な探究の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものである。今回の改訂においては、総合的な探究の時間の各学校において定める目標を、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すとともに、各学校の総合的な探究の時間において、異校種又は他校を含む外部と連携するなど、生徒や学校、地域の実態等に応じた工夫が求められていることなどを受けて、次の内容を全体計画に盛り込む必要がある。

＜総合的な探究の時間の全体計画に盛り込むべきもの＞

①必須の条件として記すもの

- **各学校における教育目標**
- 各学校において定める目標
- 各学校において定める内容
  （目標を実現するのにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

各学校における教育目標を踏まえて、総合的な探究の時間における目標を設定する必要がある。

内容の取扱いにおいて重視される内容を、全体計画に盛り込む必要がある。

②基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

- 学習活動
- 指導方法
- 指導体制 **（環境整備、外部との連携を含む）**
- 学習の評価

多様な他者との関わりによる取組などを設定する必要がある。

③その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの

- 年度の重点、地域の実態、学校・課程・学科の実態、生徒の実態、保護者の願い、地域の願い、教職員の願い
- 各教科・科目等との関連、地域や大学との連携、**小学校や中学校との連携・高等学校間の連携**　など

多様な他者との関わりによる取組などを設定する必要がある。

問７　総合的な探究の時間の学習活動をどのように進めていくとよいか。

学習過程が、次のような探究の過程となっているか、留意する必要がある。

①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。
②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。
③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
④【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

探究の過程においては、上記の①～④の順番が前後することや、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合がある。それぞれのプロセスについて、教師による具体的な学習指導のポイントは、次のとおりである。

①課題の設定

・生徒が実社会や実生活と自己との関わりから、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展するようにすること。
・教師は何もせず待つのではなく、事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握するようにすること。
・各自の課題の設定には十分な時間をかけて一人一人の生徒にとって価値のある適切な課題（その課題を解決することの意味や価値を自覚できる課題、どのようなことを調べ、どのようなことを行うかなど、学習活動の展開が具体的に見通せる課題）を設定するようにすること。
・課題の設定に向けて十分な吟味がなされていく過程で、その課題が現実的に解決可能か、どのような方法により解決するのか、解決する価値はあるのか、などが繰り返し検証されるようにすること。

②情報の収集

・収集する情報は多様であり、それは学習活動によって変わるということを十分に意識し、学習活動を行うこと。
・課題解決のための情報収集を自覚的に行うようにすること。
・収集した情報を適切な方法で蓄積するようにすること。

③整理・分析

・どのような情報が、どの程度収集されているかを把握すること。
・どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定すること。
・何を、どのように考えさせたいのかを意識し、「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用すること。

④まとめ・表現

・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりするようにすること。
・まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながるようにすること。
・伝えるための具体的な手順や作法を適切に身に付けさせること。
・目的に応じて他者に伝える方法を選択して使えるようにすること。

①～④の探究活動は、単元において何度となく繰り返して行われる。その中では、中心的な課題の解決に向けて、複数の下位の課題が生成し、それぞれの解決に向けた探究活動が行われる。こうした学習活動をスパイラルに繰り返していき、質の高い探究の過程が実現できるよう学習活動を進めることが大切である。

問８　総合的な探究の時間の評価は、どのように行えばよいか。

総合的な探究の時間における生徒の学習状況の評価については、各学校が設定した目標、内容に基づいて定めた評価の観点を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況において見られる顕著な特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述することとしている。

具体的な評価の方法については、各学校が設定する評価規準を学習活動における具体的な生徒の姿として描き出し、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握することが考えられる。総合的な探究の時間については、各学校が目標や内容を設定する際に、年間や単元を通して育成することを目指す資質・能力を設定することとしているため、評価規準は、この育成したい資質・能力をそのまま当てはめることができる。

また、総合的な探究の時間における生徒の具体的な評価の方法については、

①信頼される評価の方法であること。 ②多面的な評価の方法であること。 ③学習状況の過程を評価する方法であること。

の三つが重要である。

なお、学習状況の結果だけでなく過程を評価するために、評価を学習活動の終末だけではなく、事前や途中に適切に位置付けて実施すること、さらには、グループでの学習活動であっても、グループとしての学習評価に着目するのでなく、一人一人が学習を振り返る機会を適切に設定するなどして、一人一人の学びや成長の様子を捉える必要があることにも留意する必要がある。

４　新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

総合的な探究の時間における質の高い探究を実現するための３年間の指導計画と、育成すべき資質・能力を実現するための学校全体で組織的に取り組んでいる実践例を示す。

実践事例①　『総合的な探究の時間』に係る指導計画の作成について

◆３年間を見通した『総合的な探究の時間』の取組を可視化する指導計画の作成

「総合的な探究の時間」は、生徒の自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開し、「探究の過程を高度化する」ことや「探究が自律的に行われる」よう、質の高い探究が求められる。

ここでは、質の高い探究を実現するため、３年間のまとまりの中で実施する取組を可視化できるように作成した指導計画の例を示す。

３学年　＜発展探究Ⅱ＞

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
取組	グループディスカッションを積み重ねて研究を進化させ、研究の成果を論文にまとめる。				研究の成果を、自身の今後の進路につなげる。							
留意点	基礎探究や発展探究Ｉで積み重ねてきた研究の成果を踏まえる。				達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付き、人間としての在り方を基底に、自分の人生や将来等について見通し、どう在るべきかを定めていく。							

２学年　＜発展探究Ｉ＞

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
取組	各グループごとに、実験やフィールドワークなどを通した研究実践の取組				中間報告会に向けて、これまでの研究の成果のまとめ（中間発表）			中間報告会で得た課題を整理し、研究内容の充実			研究成果発表会	
留意点	実験やフィールドワークなどを通して実践研究を深める。				教員や地域の方々から指導・助言を得る。			研究内容を一層充実させ、広い視野を得る。			発表に対して、関係者等の専門家から講評を得る。	

１学年　＜基礎探究＞

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
取組	基礎セミナー				課題研究	研究グループごとに研究テーマの決定			研究グループごとに決めた研究テーマに沿った研究実践の取組			
留意点	探究活動を理解する。	講演を通して様々な研究に触れる。			探究活動の基礎を身に付ける。	グループごとに研究テーマを設定し、研究する。			地域や大学等と連携して、知見を広げ、研究内容の深化を図る。			

◆　カリキュラム・マネジメントと『総合的な探究の時間』の関わり

総合的な探究の時間は、生徒が探究の見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するためのものであり、変化の激しい社会において重要な役割を果たす。そのためには、総合的な探究の時間を教育課程の中核に据えて各教科・科目等との関わりを意識しながら、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立することが大切である。

特に高等学校は、生徒の実情や地域から期待される役割などが非常に多様であり、総合的な探究の時間において、各学校が設定した育成すべき資質・能力をどのように育むのかということが、その高等学校のいわばミッションを体現するものとなるべきであり、学校全体で教職員が連携してその実現に向かっていくことが必要である。

実践事例② 教科等横断的な『総合的な探究の時間』の取組について

◆育成すべき資質・能力を実現するための取組

高等学校等においては、生徒の実情や地域から期待される育成すべき資質・能力の育成を目指すことが一層求められている。その実現に向けて、学校全体で教職員が連携し、教科等横断的な取組を行うことが重要である。

ここでは、１学年における学校全体で組織的な取組の実践例を示す。

◆年間指導計画（例）

学校教育目標	高い志をもち、学びの中で「知・徳・体」を磨き、自信と誇りをもって地域社会に貢献できる人材の育成		
目指す資質・能力	・解のない時代に逞しく生きるために必要な考える力 ・地域と連携した体験的な学習活動による他人を思いやる心 ・主体的に社会や世界と関わり、よりよい人生を歩むための学びに向かう力や人間性		
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立てて情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

時期（時数）	学習活動		評価の観点 知	思	学
４月から６月（９時間）	**【単元の内容】　基礎セミナーの実施** ○ねらい 自己の興味・関心や適性に気付くとともに自己のキャリアについて考えるため、様々な分野の講演・講義・演習・実験・実習・体験等を通して、広い教養を身に付けるとともに、学問分野、地域社会の諸課題、課題解決の方法等の基礎について知る。 ○具体的な取組内容 ・ＨＲ及び学習ガイダンス、宿泊研修等において、３年間の見通し（目標・目的）を立てさせる。 ・大学教授及び研究者、地域人材を活用した講演会を実施する。 ・仲間づくりやコミュニケーション能力を向上させるためのプログラムを実施する。	○指導の留意事項 ・「知識及び技能」は、探究の過程において、それぞれの課題についての事実的知識や技能が獲得され、教科や分野などを越えて、より一般化された概念的なものを学ぶことで獲得されること。 ・「学びに向かう力、人間性等」は、探究課題に主体的かつ協働的に取り組むとともに、様々に思考したり、概念的知識を獲得したりする中で、確実に身に付けていくことができるものであること。	○		○
７月から８月（６時間）	**【単元の内容】　ミニ課題研究の実施** ○ねらい 各教科・科目において、情報活用能力を身に付けるとともに、身の回りにある課題の解決に取り組ませることで、課題解決の基本的な手順・手法を理解させる。 ○具体的な取組内容 ・教科「家庭」において、夏季休業中に各自がテーマを決め、課題研究（ホームプロジェクト）に取り組み、調査分析の結果をまとめる。 ・教科「情報」において、教科「家庭」で取り組んだ課題研究について、プレゼンテーションソフトを用いて調査分析の結果を発表し、相互評価する。	○指導の留意事項 ・教科「家庭」及び「情報」の年間指導計画と関連付けること。 ・課題の発見と解決に向けて行われる、横断的・総合的な学習や探究において、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究のプロセスが繰り返され連続することによって実現されること。		○	
９月から11月（10時間）	**【単元の内容】　研究グループごとに研究テーマの決定** ○ねらい 各グループにおいて、これまで学んできたことを基礎として、研究テーマを決定する。 ○具体的な取組内容 ・生徒の興味・関心、進路希望等を踏まえたグループを構成させる。 ・大学教授や研究者、地域人材からのアドバイスを受けながら、研究テーマを構想させる。	○指導の留意事項 ・目標を実現するための探究課題を設定するように指導すること。 ・現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題を設定できるように指導すること。		○	○
12月から３月（10時間）	**【単元の内容】　研究グループごとに決めた研究テーマに沿った研究実践の取組** ○ねらい グループによる探究活動において、成果を求めて試行錯誤を繰り返し、思考したことを実際に試すとともに、次年度の「発展探究Ⅰ」につながるように、振り返りを確実に実施する。 ○具体的な取組内容 ・グループごとに発表させる。 ・発表の方法はグループで決定する。（ポスターセッション、プレゼンテーションソフトの活用、英語の活用等）	○指導の留意事項 ・各教科等で身に付けた資質・能力が活用されるようにすること。 ・教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力（情報活用能力、言語能力、考えるための技法）を育み、活用されるようにすること。 ・次年度への取組に生かせるよう計画、実施、評価、改善というカリキュラム・マネジメントのサイクルを着実に行うこと。		○	○